

10/28/18 「最後まで走りきるための秘訣」 ピリピ 3:12-16

### Introduction

- “忠実に歩み続けたクリスチャン”と聞けば、誰のことをまず思い浮かべられるでしょうか？
  - アブラハム、ダビデ
  - パウロ、ペテロ
  - 初代教会
  - 宗教改革者
  - 祖父や祖母
  - 父や母
  - 友人
- ポリユカルポス(ポリカーブ)
  - スミルナ(現在のトルコ、イズミル)
  - AD69 に誕生
  - 彼は若い頃、12 弟子の一人であるヨハネの弟子であったがゆえに、彼の生活というのはあらゆる面において、キリストの福音に根ざしたものでした。
  - 熱心にキリストを教える忠実なクリスチャンでした。
  - しかし、どんな時代にあっても、忠実なクリスチャンには迫害があります。(ポリカーブも例外ではない。)
  - この当時のローマの役人は、彼の信仰を良しとせず、彼を捕まえて、その信仰を捨てるようにと迫りました。

- この状況下にあって、彼がその命令に対して逆らうことは死を意味するものでした。
- しかし、彼はそのローマの役人にこういった訳です。
  - 「86 年もの間、私は主に仕えてきましたが、このお方は何一つ私に間違ったことは為さりませんでした。どうして私を救ってくださった私の王を呪うことができましようか。」
  - 「あなたが私を脅すその火は一時的で、すぐに消えてしまいます。しかし、私はあなたが何も知らない火について知っています。それは来る裁きのため、永遠の裁きのため、神を恐れない者に用意されている火です。ですから、何をためらっているのですか。あなたのしたいことをしなさい。」
- ポリカーブはキリストへの愛を最後まで決して失うことはありませんでした。
- 彼は自分の下す決断が、死をもたらすことを知っていたにも関わらず、最後まで信仰を守り通したわけです。
- そしてその結果、彼は火に投げ込まれ、殉教していった訳です。
- 彼は、信仰のレースを最後まで忠実に走りきったわけです。

- 恐らく、これまでに皆さんもこれに似た話を誰かから聞いたことがあるでしょう。死の最後の最後のまで、信仰を忠実に守り続けた人物の話を。(パウロ)
- しかし、その話を聞いた時にこう考えたことはないですか:
  - なぜこの人物はそのように生きることができたのか?
  - なぜ死の危険が差し迫った場面であっても、信仰を忠実に守り抜くことができたのか?
  - どうしてそれほど力強く、**信仰のレースを走り抜くことができたのか?**
  - なぜなら、時に私たちはこのような人物達の歩みを聞いて、自分には到底真似できないと思ってしまいませんか。この人物たちは特別だったんだと。
- 今朝皆さんと考えたいのは、タイトルにもあるように、「最後まで走りきるための秘訣」についてです。
- これは皆さん一人一人にとってとても大切なことです。なぜならもし、本当のクリスチャンであるならば:
  - あなたはもう既に**信仰のレースのスタートを切り、**
  - あなたはもう既に**ゴールに向かって走り続けている**からです。
  - あなたはもうそのレースの**過程**にいます。
  - ヘブル 12:1
    - 「こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいおの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前

に置かれている競争を忍耐をもって走り続けようではありませんか。」

- 聖書が教えることは明白です。もし、キリストの弟子であるならば、あなたは信仰のレースを今走っているのだと教えているのです。
- クリスチャン生活は簡単なものではありません。多くの困難や試練を経験することでしょう。
  - 信仰ゆえにいのちが脅かされることは今ないかもしれません。
  - しかし、信仰ゆえに、自分の財産や家族友人を失うことがあるかもしれません。
  - もしかしたらあまりの苦しさ信仰を捨ててしまいたいと考えた人もいるかもしれません。
  - あまりの苦しさゆえに、今置かれている状況の中に希望を見いだすことができない人もいるかもしれません。
- パウロの教えを見ていく前に、皆さんに覚えていて欲しいことがあります。それは…
  - 1. 私たちの走っている信仰のレースのゴールには神様からの報酬が待っているということです。
  - 2. 私たちもかつての忠実なクリスチャンと同じように最後までレースを走りきるということです。

- 3. そして最後に、最後まで忠実に走りきることは私たち一人一人に課された使命だということです。
  - では一体どのようにしたら最後まで忠実に走りきることができるのでしょうか？その秘訣とは一体何でしょうか？
  - 今日のテキスト、ピリピ 3:12-16 は私たちに3つの秘訣を教えてください。
    - 忠実に走りきるための3つの秘訣

#### I. 正しい心構えを持つこと(vv.12-13a)

- 一つ目の秘訣は、正しい心構えを持つということです。
- もう一度、12節から見てください。
  - パウロは繰り返し、自分がまだ不完全だということを次のような言葉で言い表しています。
    - 「すでに得たのでもなく」
    - 「すでに完全にされているのでもありません(v.12)」
    - 「すでに捕らえられたなどと考えるはいけません。(v.13)」
  - 一体ここでパウロは何が言いたかったのでしょうか？
  - そのことを理解するためには、少し12節以前に何があったのかを理解しなければいけません。
    - 4-11節にはパウロの救いの証。

- かつて、人間的に見れば全てを持っていたパウロ。(詳しくはレジメ)
- キリストを知ることによってパウロは変えられた。
  - 7-8節「しかし、私にとって得であったこのようなものをみな、私はキリストのゆえに、損と思うようになりました。それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくたと思っています。」
- パウロはかつて自分自身のうちに誇りを見いだしていた。しかし、キリストを知った瞬間、キリスト以外のもの全てのことがむなしくなった。
- キリストを知るといことが、パウロの生活を根本から変えた。
  - キリストをより知ることを望み、

- キリストにより似た者になることを望んで生きるようになった。
- この箇所パウロが言わんとしたこと：
  - パウロはキリストを知ることの素晴らしさを少し味わった。
  - しかし、まだまだそのキリストを知るといことは完全なものからかけ離れていることを知っていた。
  - だからこそ、パウロはキリストを完全に知ることを望み続けた。
  - パウロは自分がどこにいるかをよく知っていた。
  - パウロは自分がまだゴールからかけ離れた位置にいることを正しく理解していた。
  - パウロは正しい心構えを持っていた。
    - 「自分はレースを走り始めた、でもまだゴールは先にあるんだ。」
- この心構えを私達も持たなければいけません。
  - 残念ながら、ある人達は自分が既にゴールに達したかのように振る舞っています。
    - ある人はクリスチャンになることがゴールであるかのように思っています。
- それゆえに…
  - 御言葉に対して
  - キリストに似た者になることに対する熱意がないわけです。
  - スタートやレースの途中で勝手に休憩している人がいれば？
- パウロはゴールが自分の前であることを知っていたがゆえに、立ち止まることなく走り続けていたわけです。
  - 12節もう一度見てください。
  - 「追及しているのです」
    - 何かを熱心に追い求めている人の様子を表す言葉。
    - 一番を目指して走っているランナー
  - パウロのキリストを知ることにかかる情熱は生ぬるいものではありませんでした。
  - 私達も同じような思いを持っているでしょうか？
    - 「キリストをもっと知りたい！」と最後に願ったのはいつでしょうか？
- パウロはキリストを知ることによって変えられました。
- パウロはキリストを心の底から味わい、そして、その素晴らしさに気付いたわけです。
  - だからこそ、キリストを完全に知ることを望んで、走り続けていました。

- 途中で止まることはありませんでした。
  - ただ、熱心に、キリストにお会いし、完全にされるその日を夢見て、走り続けていたのです。
- では、私たちはどうでしょうか？あなたは自分はゴールにたどり着いたかのように思っていないでしょうか？あなたはパウロが走り続けたように、今キリストを知ることが望んで走り続けているのでしょうか？
  - あなたは今キリストにより似た者になりたいという思いを持っておられるのでしょうか？
  - もし、途中で止まっているのであれば、決して止まってはけません。私たちはまだゴールにはたどり着いてはいないのです。

## II. 一点に焦点を絞ること(v.13b)

- 二つ目の秘訣は、一点に焦点を絞ることです。
- 13節をもう一度見てください。パウロはこう言っています。「ただ、この一事に励んでいます。」
- パウロがここで言わんとしたこと、それは明白です。
  - 私たちがレースを走るとき、私たちは一つのことに集中しなければいけない。
  - 言い換えれば、私たちはただゴールであるキリストを知ることが焦点を当てなければいけないということです。
- きよろきよろと周りを見渡しながらか走るランナー

- なぜきよろきよろと周りを見渡しながらか走することは駄目なのでしょう？
  - 集中していなければレースに勝つことができない。
  - しっかりゴールを見ておかなければ、正しいコースから外れる。
  - 間違っていることを気付かずに走り続けるなら、道に迷うだけでなく、決してゴールにたどり着くことはない。
- ランナーにとってゴールだけを見て走り続けることは当たり前のように大切なことです。
  - だからこそ、パウロはキリストを知ることただ一つのこと集中していたわけです。
  - 彼の目は常に一つのことに焦点を置いていました。
- では、私たちはどうでしょうか？私たちは同じようなゴールだけを見た歩みをしているのでしょうか？
  - 私たちの世界には多くの誘惑になるものであふれています。
    - 素晴らしいもの、良いものもたくさんあります。しかし、それが時には私たちの目を濁らせるのも事実です。
    - ある人にとってそれは、お金、携帯、テレビ、食べ物かもしれません。それらが、キリストから私たちの目を奪ってしまう訳です。

- 決してそれらのものが悪いわけではありません。しかし、もしそれらのものを私たちがキリストよりも愛してしまうのであれば、私たちの焦点はずれてしまっているのです。
- そして、私たちがキリストだけを見ていないのであれば、道から外れて、最後まで走り続けることのできない危険性があるのだということです。
- もし私たちが本当のクリスチャンであるならば、私たちはキリストに似た者になるために神によって召されたものです
  - ローマ 8:29 「なぜなら、神は、あらかじめ知っておられる人々を、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの子供たちの中で長子となられるためです。」
  - キリストに似た者になること、それこそが私たちの人生の最大で、たった一つの目的になったわけです。
    - だからこそ、私たちは決してこの目標から目をそらしてはいけません。
    - キリストを知るといって最も素晴らしいゴールがありながら、他のそれに劣るものに目を向けてはいけません。
    - キリストにお会いし、キリストに似た者になるというただそのゴールだけを目指して

忠実に走り続けていくことが求められているのです。

- あなたへの質問は、今日このように歩んでいるかということです。あなたの目はただ一つのゴールにだけ焦点を置いているでしょうか？ただキリストを知るといって目標を目指して走り続けているのでしょうか？別のものに心を奪われてはいませんか？
  - 決して他のものに目を向けてはいけません。
  - ただ一つのゴールを目指して忠実に走り続けることです。まだ、ゴールに達してはいません。

### III. 報酬を追い求め続けること (vv.13-14)

- 最後に三つ目の秘訣は、報酬を追い求め続けることです。
- もう一度 13、14 節を見てください。こうパウロは言いました。
  - 「すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目指して一心に走っているのです。」
- 二つのポイントがあります。
  - 1. 私たちがレースを走るとき、私たちはまず後ろのものを忘れなければいけないということです。
    - 言い換えれば、私たちはこれまでの自分の過去に縛られてはいけないということです。
    - もちろん、過去の記憶を全て消し去れという訳ではありません。それは不可能です。

- ここで言わんとしていることは、過去のことを、前に進み続けるために、意図的に忘れるということです。
- どういうことか？少しパウロの例で考えてみましょう。
  - もし、パウロが過去にとらわれていたのであれば、まずパウロは自分のしてきた多くのことで誇ることができました。
    - 考えてみてください。この手紙を書いたときには既にパウロは約 20 年もの間キリストに仕えていたわけです。
    - もしその気になれば、簡単に自分の過去を振り返って、人に自慢することができたでしょう。
  - しかし、彼はしませんでした。なぜか？
    - それはパウロの目が常に後ろではなく、前を向いていたからです。
    - パウロは過去に自分が何をしたかには興味がなかったのです。
    - 彼の関心は常に前へ前へと、キリストをより知ることだけにあったのです。
  - またもし、パウロが過去にとらわれていたなら、反対にパウロは自分のこれまでにしてきたことにうちひしがれていたかも知れません。
    - 考えてみてください。
    - パウロはクリスチャンを熱心に迫害していました。
    - その自分の過去に犯した罪の罪悪感に苛まれてもおかしくはありませんでした。
  - しかし、彼はそれをもしませんでした。なぜか？
    - それはパウロの目が常に後ろではなく、前を向いていたからです。
    - もちろん、彼の心の中には罪悪感があったことでしょう。しかし、それ以上に、彼は神が与えてくださった素晴らしい救いに感謝していたのです。
    - だからこそ、神は常に神に感謝しながら、前へ前へと走り続けていたのです。
- 私たちはどうでしょうか？残念ながらこんな言葉をよく耳にしませんか？
  - 「私は 20 年の間この働きに携わってきました。」
  - 「クリスチャンになったとき、私は聖書を何十回も読んだり、これだけのものを捧げしてきました。」
- また、私たちは自分の犯した罪にずっと悩んでいたりしませんか？

- 「こんな罪をクリスチャンなのに、神に対して犯してしまった。私なんか決して赦されない。」
- どうか、パウロのメッセージに耳を傾けてください。
  - あなたが過去に神のために行ったことは、素晴らしいことです。
  - あなたのこれまでの忠実さというものは素晴らしいものです。
  - しかし、問題は、
    - 今、あなたは神に対して忠実に歩んでいるでしょうか？
    - 今、あなたは神に救われたときと同じ情熱を持って主に仕えているでしょうか？
    - 今、あなたは初めの愛をもって、神を愛し、そして周りの人を愛しているでしょうか？
  - 確かに私たちは罪の性質をもっているので過ちを犯してしまいます。
    - しかし、もし私たちが心から悔い改め、赦しを請うならば、恵み豊かな神はその罪を赦してくださるので
    - だから、決して私たちは歩みを止めてはいけません。
- これまでの過去にとらわれ続けていてはいけません。
- 2. 私たちがレースを走るとき、私たちは前にひたすら進み続けなければいけないということです。
  - ゴールラインのないレース
  - しかし、信仰のレースはそのようなものではありません。
    - このレースには必ずゴールがあります。
    - そしてこのレースには必ず神からの報酬が待っているのです。
      - キリストと顔を顔を合わせる日は必ずやってきます。
      - その時私たちは神がどのようなお方を完全に知るので
  - 1ヨハネ 3:2
    - 「愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現れたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。」



- キリストに似た者と完全にされるとき、そこにはもう苦しみや悲しみ、涙はありません。キリストと共にいるその喜び、平安が私たちを待っているのです。

○ 兄弟姉妹の皆さん

- あなたの信仰のレースは難しく、つらいものかも知れません。
- あなたはあらゆるものを犠牲にしなければいけないかも知れません。
- 自分の財産だけでなく、家族、友人を失うかも知れません。
- 罪との葛藤を経験することでしょう。
- 多くの間違いを犯し、あるとき、自分のレースの先には何の希望もないかのような思いに陥ることもあるかも知れません。
- どうか、パウロが言ったことを覚え続けてください。
  - 信仰のレースには必ずゴールがあると。
  - このレースには必ず報酬があると。
  - そしてあなたがゴールラインを切る時、それを手にするのだと。
  - そして何より、神ご自身があなたのレースを共に走ってくださいと。

○ ヤコブ 1:12

- 「試練に耐える人は幸いです。耐え抜いて良しと認められた人は、神を愛する者に約束された、いのちの冠を受けるからです。」
- ゴールは必ずやってきます。そして、忠実に走りきったものには神は報酬を用意してくださいと約束されています。
- 私たち一人一人の責任は、ひたすらに前を見てこのゴールを目指して走り続けることです。

**Conclusion (vv. 15-16)**

- 終わりに、パウロは 15-16 節の中でピリピの人たちに命令を与えています。
  - 「成人である者はみな、このような考え方をしましょう。」と。
- パウロは最後まで走りきる秘訣を教えた後に、ピリピの人に自分が目指しているのと同じように、信仰において成長するようにと促しているのです。
- そして、これは私たちにも今日与えられている命令です。
  - 私たちはいつまでも霊的な赤ん坊でいることはできません。

- 1 ペテロ 2:2 「生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。」
  - 私たちは皆、信仰において成長していく責任があるのです。
  
  - もし、今日この中にそもそもキリストを知ることの素晴らしさを知らない方がいられるなら、どうかそれを知ってください。あなたの人生を根本から変えるその力がキリストにはあるのです。
  - そしてもし、知っている方の中に今日より成長していきたいという思いが心の中にない方、パウロが言ったように、神が聖書を通して、その導きを明らかにしてくださることを祈っています。
- 皆さん、最後に、メッセージの初めに言った言葉をもう一度よく覚えてください。
    - 1. 私たちの走っている信仰のレースのゴールには神様からの報酬が待っているということです。
    - 2. 私たちもかつての忠実なクリスチャンと同じように最後までレースを走りきることができるということです。
    - 3. そして最後に、最後まで忠実に走りきることは私たち一人一人に課された使命だということです。
  - どうか今日与えられた一日を正しい心構えで、ゴールに焦点を絞って、私たちを待っている報酬を目指して走り続けていきましょう。
  - 決して途中で立ち止まってははいけません。
  - 「よくやった、忠実なしもべよ」と、最後主にお会いして、言われるその時まで、私たちの信仰のレースを共に走り切りましょう。